

キンメダイの種苗生産技術開発

(予算区分 県行政 研究期間 平成28年度～)

担当：水産技術研究所伊豆分場 永倉靖大 深層水科 野田浩之

【研究の背景とねらい】

キンメダイは、年間水揚量がピーク時の7千トンに比べて近年は2千トン未満となっており、資源の減少が続いています。県では第7次栽培漁業基本計画（期間：平成27～33年度）で、キンメダイを新規で研究対象魚種に採用し、栽培漁業研究に取り組むこととしました。キンメダイは産卵期に漁獲した親魚からの人工採卵や、ホルモン処理による短期養成によって受精卵が得られた例はありますが、種苗生産には成功していません。そこでキンメダイ栽培漁業に向けた研究の第1段階として、種苗生産技術を開発します。

【これまでに行われた成果】

- ・親魚養成のため、伊豆半島東岸沖漁場で釣獲した113個体（平均尾叉長31.1cm）を、海洋深層水（取水水深270mおよび397m）を用いて飼育した結果、27%が餌付き、最長で788日生残した個体があったものの、飼育下での産卵は確認できませんでした（図1）。
- ・産卵期である7～9月に成魚の捕獲を実施した結果、8月以降は成熟個体の割合が低下したことから、人工授精を目的とした捕獲の適期は7月以前と考えられました。
- ・人工授精試験の結果から、雌の成熟サイズは尾叉長30cm以上と考えられました。
- ・産卵期に捕獲した成熟魚を用いて人工授精を実施し計3,500尾の仔魚がふ化しました。
- ・種苗生産試験の結果、日齢4から摂餌を開始し、最長で18日間生存しました（写真1）。

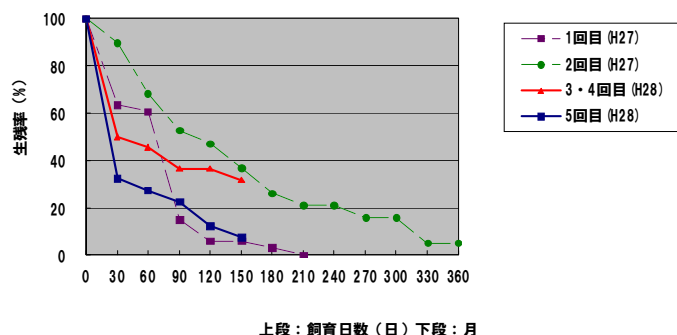


図1 親魚養成における生残率の推移



写真1 キンメダイ仔魚（日齢9）

【期待される効果】

栽培漁業の推進によって、積極的な資源回復の取り組みが図れるようになります。また、飼育試験によってキンメダイの初期生態の解明への貢献が期待されます。

【今後の計画】

良質卵の確保のため、ホルモン処理方法の改良や精子保存技術の試験を実施します。さらに仔魚飼育における餌料の量と質、飼育環境の適正化を図り、より長期飼育を目指します。

(作成 平成30年4月)